

事前質問への回答及び当日の質問への回答一覧

①農業人材力強化への支援

	質問事項など	回答
事前質問	(1) 事業実施経営体の具体的経営内容(対象とする農作物の種類、農地面積、作付け・収穫などの設備投資、収穫量、収穫から得られた収入、全体の経費など)を、過去5年間の経営体の、それぞれの状況をお示し下さい。	当日資料17P参照
	(2) この事業は、国の農業次世代人材投資事業を活用し新規就農者に対して行う給付金であるが、十和田市の農業全体と比較すると、5年間の経営体(合計85)は、農業人口、農地面積、それぞれの農作物収穫量において、どの程度の割合となったのか、お示し下さい。	当日資料18P参照
	(3) 機械化が進むことで労力を少しでも削減できますが、機械化のための設備資金等について新規就農者にはどのような指導をされているのか。また、年間の収入は見込めるのか、最終的には利益が出るプランなのかお聞かせください。	当日資料20P参照
	(4) 支援する新規就農者の作付け作物の状況をお知らせください。	当日資料20P参照
	(5) 平成24年度からの事業であるが、最長5年交付を受けた者はいるかについてお教えください。	当日資料21P参照
	(6) 交付年数が経つにつれ、所得の増につながっているか、または目標とする所得が見込まれているかをお教えください。	当日資料21P参照
	(7) 目標値は何を基準に設定していますか？	当日資料22P参照
	(8) 事業の活用数は周辺自治体と比較してどうですか？	当日資料22P参照
当日質問	当日資料10Pの経営状況の事例①収入・経費の推移について、経費とは何か。	経費はアルバイトのPersonnel費や資材購入費がメインとなります。
	当日資料10Pの経営状況の事例①収入・経費の推移を見ると、農業次世代人材投資事業の補助金150万円が無ければ事業が成立しないということか。	推移の収入には補助金が含まれていません。農業収入だけでは生活が厳しいため、所得補填という意味での補助金となります。
	儲かる農業とは何か。	指導の立場としては、事業を有効活用したうえで、技術的な面では農協の指導員、県民局の営農指導をされる方々の指導により、高所得を目指して頂くという方針です。
その他意見など	十和田市にとって第一次産業は将来的にも基盤産業として、極めて重要であることは、共通認識だと思われます。その場合、十和田市の将来予測として、どのような農作物を、どのような生産体制で、どのように農地を活かして、どの位の収益をと言うマスタープランが必要と思われる。この事業は、個人レベルの事業であり、ここでの議論は、少し場違いであるが、本質的な所を、十和田市が関連団体と一緒に検討する時期に来ていると思われる。人口縮小社会の最先端を走っている青森県として、時代の魁となる事業展開が望まれる。	当日資料19P参照

②中心市街地活性化

	質問事項など	回答
事前質問	(1) 事業総括にある次年度繰越の経緯と問題点の解決策について、経時的に概要を説明してください。	当日資料14、16P参照
	(2) 本事業は、十和田市の公共事業のあり方の試金石で、人口縮小社会における「公助」と位置づけられた箱物行政のあり方をも示している。中心市街の活性化が都市機能の増進と経済活性化というキーワードと、どのようにマッチするのか、その予想される今後の展開をお聞かせ頂きたい。	当日資料24P参照
	(3) アート住宅は大変魅力的だとは思いますが、買い物機能はどのように持たせるのかをお教えてください。	当日資料22P参照
当日質問	当日資料13Pの地域交流センター整備事業について、予算額のチェック等を行った後も十分なスペックで折り合いが付いたか。	利用に当たって影響のない範囲でスペック見直しを行い、当初予定していた施設として利用可能となります。
その他質問等	(意見)どの課題に対しても、同じような問い掛けをせざるを得ないが、人口縮小社会のトップランナーである青森県。市内外からの消費を呼び込むことも先細りとなることは明らかである。一方で、地球レベルでは2050年問題という、人口増加(90億人)による食糧危機。このような未来予測に対する十和田市のあり方を考える時期に来ている。	
	(意見)中心市街地活性化については、なかなか難しいものがあると思います。古くなったアーケードがあったり、空き店舗が多く目立つようになりました。そういった中で、市では現在みち銀跡地の整備や公共交通拠点整備等がされますが、整備された後の周辺の整備も考えてゆかなければならないのではないかと考えます。その部分を商店街にといってもなかなか厳しい状況と考えますので、ワークショップなどを行い、一緒になってできることを考えていってはでしょうか。	

事前質問への回答及び当日の質問への回答一覧

③特定不妊治療支援

	質問事項など	回答
事前質問	(1) 地域全体で子育てを支援するという趣旨に沿った事業であると思います。しかしながら、助成金額を二倍にしても利用数の伸びはなく、周知徹底が必要かと思われたが、如何でしょうか？	十和田市の女性学に変更はありません。1回あたりの治療費に対する県の助成額が増えたために2回目以降の助成額が県の助成費30万円ではまかなえるため、十和田市に申請する必要がなくなることが見込まれています。周知については県や医療機関が行っており、現時点で対象となるものについてはほぼ周知できていると考えています。
	(2) 個人情報となるので、マル秘回収資料でも良いが、具体的な受胎率など不妊治療の実績をお教えてください。	当日資料3P参照
	(3) 不妊治療の問題点は個体間で様々であるが、不妊状態を早期に理解することが早期治療に繋がると思われます。ポスター・HPによる助成金のアナウンスもされていますが、頂いた資料を拝見し、不妊に悩む夫婦に対しての、もう少し踏み込んだPR(?)も必要かと思いました。当事者の理解醸成は、保健師による個別の対応のレベルでしょうか？具体的な対応について、お教え下さい。	不妊治療の相談先は医療機関や保健師といった専門的知識を持った方となり、相談は個別対応となるため、当事者の理解情勢も個別対応となると思います。ポスターやHPについては県から周知しておりますので、十和田市での助成制度の案内としては、治療をまだ受けていない方に対して、治療を受けてみようと考えてもらうためのツールであると認識しております。
	(4) 大変良い事業であると思いますが、現況コロナ禍の中で仕事のやりくりや経費の面などから、子供を産み育てる環境づくりはとでも大変なことだと思います。現況コロナ禍の中ではますます厳しい状況にあると思いますが、一部助成金の見直しなどは考えられるかどうかお聞きます。	当日資料2P参照
	(5) 特定不妊治療者への助成率はどの程度となっていますか。治療者何名に対する30件/年の助成でしょうか。	当日資料3P参照
	(6) 広報・HP以外の告知方法はどのようになっていますか。医療機関等でも告知されていますか。	質問(1)(3)の回答を参照
当日質問	当日資料3Pの実績及び治療結果等について、初めにA新鮮胚移植を実施後失敗した場合、次にB凍結胚移植を実施するという事を繰り返していくと思います。表には年度で人数が書かれていますが、前年度から引き続き治療している人はどうなるか。	前年度から引き続き治療している方もいます。ただ、治療が終わった後に申請となります。
	(当日資料3P続き) 実人数が22人で、治療後の出生数が4人ということで、残りの18人は【B凍結胚移植を実施】、【C以前に凍結した胚を解凍して胚移植を実施】のステージにいるのか。	A・B・Cどのステージかは関係ないようです。あくまでも移植が成功した数値となります。
	移植が成功したのになぜ4人しか生まれないのか。	受胎率をどのようにとらえるか迷いましたが、こちらで把握しているのは移植の結果と出生数のみとなります。

事前質問への回答及び当日の質問への回答一覧

④健康診査の推進

	質問事項など	回答
事前質問	(1) 高齢化社会における健康寿命の増進は重要なポイントであり、本事業は極めて有益性のあるもので、問題は、市民の意識向上である。大腸ガン検診率も増加傾向にあるが、目標値には未達。今後の対応策をお聞かせ頂きたい。	当日資料8P参照 大腸ガン検診事業について、令和3年度はさらに66歳も対象に加え、目標値に近づけるよう継続実施しております。
	(2) 十和田市・青森県の大腸ガンの罹患率と全国との比較を知りたい。リスク要因は色々あるが、青森県の場合、飲酒、喫煙などの要因が強いのであれば、食生活改善のレベルからの啓蒙も必要か？必要な場合は、小中学校レベルから始めるのが良い。	把握が難しく、全国及び青森県の数値は示されていませんが、青森県保健統計年報によれば、令和元年度の大腸ガンの死亡率については、令和元年度の人口10万帯あたり、青森県全体では66.1人に対して、十和田市では57.3人となっております。幼少期からの健康意識への取組としては、子育て世代の健康づくり応援事業を実施しています。乳幼児期や学齢期は望ましい生活習慣を身に付け、生涯を通じて親子で健康的な生活を実施するため大切な時期があることから、小学校や保育所に向いて親子行事を活用し、保守教育を実施しています。
	(3) 検証シートでは、大腸がん検診に主眼を置いていると捉えるが、子宮頸がんや乳がん検診において、以下の点についてお教えください。 1)無料クーポンの交付時期はいつか。 2)既に受診した者への対応はどうしているのか。 3)無料クーポンは、ランダムに交付しているようだが、子宮全摘手術や乳がん手術を受けた者にも交付しているのか。	当日資料11P参照
	(4) 受診率を上げるために、事業所や地区別の受診率を把握し、表彰するなどの方策は考えていないでしょうか。	特定健康診査やガン検診受診率向上、健康教養の向上及び健康づくりに取り組むきっかけとして市民個人については健康とわだポイントラリーを実施し、抽選により地場産品が当たる事業に取り組んでいます。
当日質問	大腸がんの検査で採便キットを送付・回収後、精密検査に移行する割合はどれくらいか。	(資料がなく、未回答)
その他質問等	感染症、ガン、循環器病などの基礎知識を早い段階から教えることが肝要で、是非、出前講義(授業)などで小中高レベルから。	
	(意見)大腸がんの検査をすることによってどんなメリットがあるのかPRすると受診率が高まるのではないか。 (意見)子宮頸がんのワクチンを徹底的にPRしてほしい。	

事前質問への回答及び当日の質問への回答一覧

⑤空き家等対策

	質問事項など	回答
事前質問	(1) 十和田市内に空き家と思われる家屋はどの程度あるのでしょうか？また、それは全体の家屋数のどの位でしょうか？	当日資料13P参照
	(2) 空き家に関連する苦情が80件とのことですが、これは空き家全体のどのくらいの割合でしょうか？	当日資料13P参照
	(3) 空き家のマップなどがありますか？また、地域ごとに空き家の特徴はありますか？	当日資料13P参照
	(4) 空き家を利用した地域活性化などは、別の事業だと思われませんが、活性化に使えるような家屋はありますか？	当日資料14P参照
	(5) 空き家の固定資産税の納税状況は分かりますか？	当日資料14P参照
	(6) 空き家対策についてもなかなか難しい問題だと思います。十和田市では、以下の点がどのようになっているのか教えていただきたいと思います。 1) 空き家の所有者との連絡がスムーズにとれるのかどうか 2) 所有者は空き家の適正な管理をどのようにされているのか 3) 空き家についてどのくらいの情報を持っているのか	当日資料14、15P参照
	(7) 成果指標の苦情件数は、目標値を大きく上回っていると思われるが、どのような視点で「達成できなかった」としているのでしょうか。	当日資料15P参照
	(8) 平成30年度からの大幅な事業費減少の要因は何でしょうか。	当日資料16P参照
	(9) 中心街にも空き家や朽ちかけた廃墟が散見されますが、景観改善のために何か方策は考えていますか。	当日資料16P参照
当日質問	空き家バンクについて、ランクSに登録されている件数は。	現在、公開しているのは4件です。売買されている事案も結構あります。
	平成27年に裾野ができて、仕事がしやすくなったか。	仕事としては主に苦情処理が1番になりますので、連絡しても対応してもらえないケースもあり、困っているという現状です。

事前質問への回答及び当日の質問への回答一覧

⑥公園施設の整備

	質問事項など	回答
事前質問	(1) 十和田市に設置されている公園の数と面積、並びに施設・設備の内訳をお教えてください。	当日資料3P参照
	(2) 公園緑地の内訳をお教えてください。	当日資料9P参照
	(3) 施設・設備の耐用年数と更新などの予定をお教えてください。	当日資料9P参照
	(4) 人口縮小社会となる場合、全体の予算もダウンサイジングされますが、公園の維持管理は、どのようになるのでしょうか？ 将来予測はありますか？	当日資料10P参照
	(5) 公園施設については、特に子供たちが遊ぶ遊具が古いままにあると思います。安全面から高木の剪定等はよく見受けますが、遊具が新しくなったところをあまり目にするがありません。予算規模からの遊具の設置費は年間どのくらいなのかお聞きしたいと思います。	当日資料10P参照
	(6) 令和2年度は遊具修繕・撤去2件と大幅減少に対し、事業費が増加しているのは保全地区維持管理費の増加によるものですか。	当日資料10P参照
当日質問	都市整備建築課では、年間6,000万円の運転資金が必要となるということで理解してよろしいでしょうか。	昨年度では1億4,000万円くらいかかっております。その中で5,000万円ほどが危険樹木の伐採に充てられています。

事前質問への回答及び当日の質問への回答一覧

⑦公共交通の維持・確保

	質問事項など	回答
事前質問	(1) ライフラインに次いで、公共交通の維持・確保は高齢者などの交通弱者にとって極めて重要な問題である。しかし、十和田市は広い面積をもつ自治体となり、公共交通のあり方も、それぞれの地域によって要望が異なると思われる。それらの分析と、決め細かな対応などの具体例があれば、お教えてください。	ご指摘のとおり十和田市は居住地域が広域にわたり、それぞれの地域によって、公共交通の需要も大きく異なっております。そのため、それぞれの地域の需要や状況に合わせ、予約制乗合タクシーや公共交通空白地有償運送を導入し、高齢者などの交通弱者の移動手段の確保に努めております。また、導入にあたっては、地域の方と協議しながら、乗降場所や運行時間について決定しております。
	(2) このような問題は、十和田市に限らず、日本各地の過疎化が問題となる自治体でも抱えているものと推察されます。「交通弱者に対応した地域公共交通システム」の先行事例などの紹介をお願いします。また、それらから何を学ぶべきか、十和田市で実現出来ない問題は何か？これらの解析が出来ているのであれば、その紹介をお願いします。	全国の多くの地域においても、十和田市と同様にコミュニティバスや予約制乗合タクシー、公共交通空白地有償運送を導入するなど、地域の実情にあった移動手段を組み合わせることで実施しています。岩手県北上市では、地域の自治会が主体となり、地域住民のボランティアや助け合いによって、運賃無料の互助による運行を実施しています。当市においては、旧十和田湖町地区において、NPO団体が有償運送事業を実施しておりますが、他の地域においては、交通事業者による運行やスクールバス等の活用などにより、カバーできている状況ですので、互助については、まだ導入する予定はございません。地域の公共交通は、行政や交通事業者だけではなく、地域住民を含めた地域全体で支えていくことが求められていくと考えられます。今後においても、新たな交通システムの構築も含め、全国各地の取り組みについて、情報収集していきたいと考えております。
	(3) ラッピングバスの評価は。	バスのラッピングは、アーツ・トワダ10周年に合わせて実施したものであり、蜷川実花様、飯川雄大様、曾谷朝絵様の3人のアーティストの方にデザインしていただきました。アートをテーマにしたインパクトのあるデザインであり、利用者がひと目で循環バスであることが分かるほか、市民や観光客に対して、アートの街「十和田市」をアピールすることができたものと考えております。
	(4) 費用対効果をどう捉えているか。	令和2年4月よりラッピングバスを運行しておりますが、利用者がひと目で循環バスだと分かることで、市街地循環バス・西地区シャトルバスに対する市民の認知度が向上し、利用者の増加につながっているものと考えております。また、インパクトのあるデザインのラッピングバスがアートの街「十和田市」を走行することで、アーツ・トワダ10周年の観光客等へのPRにもつながったと考えます。
当日質問	有償運送について、自家用車での運送にはルールがあるのか。	公共交通空白地有償運送は運輸支局と協議のうえ運行しています。NPO法人が自家用車を使用して運行しておりますが、市からの補助金において保険等は対応しております。
	路線バスについて右肩下がりが多いが、子どもたちの数は中学生か高校生か。	十和田西高、六戸高、五戸高の閉校が近づいてきており、学生が減っているという状況がございます。また、70代の女性で運転できる方が増えているのも減少要因ではないかという分析もあります。
その他質問等	高齢者になることで、バスの乗り降りやバス停でバスの来るのを待つ時間と座るところがないと路線バスを使うことも大変だと思います。十和田市では、路線バスに代わる事業も実施していることから、この事業の継続と環境整備が必要だと思います。	市民の生活の足を維持・確保すべく、循環バスなどの交通政策に取り組んで参ります。循環バス等の待合環境改善のため、市では今年度、屋内グラウンド前にも上屋付きのバス待合所を整備します。路線バスの待合環境については、引き続き交通事業者に働きかけて参ります。

事前質問への回答及び当日の質問への回答一覧

⑧市民交流プラザの利活用の促進について

	質問事項など	回答
事前質問	(1) 利用者の内訳(年齢、性別など)や利用団体、利用時間、各部屋ごとの利用率などをお教え下さい。	当日資料13P参照 利用団体ごとの利用率ならびに利用者の年齢・性別は把握しておりません。
	(2) 新規利用率(団体・個人)はどれ位でしょうか？	令和2年度の利用団体数は208団体であり、そのうち新規団体数は59団体です。個人の利用率は把握しておりません。
	(3) オープンから7年目となりますが、点検評価の中で、問題となっているのは何でしょうか？	オープン当初は残響音の問題がありましたが、遮音カーテンを設置するなどの対応により解決が図られています。その他施設の運営上、経年劣化による施設内の細々とした修繕等対応を行っておりますが、大きな問題等無く対応しております。
	(4) ハード面で、このような機能・面積があれば良いというのがありますか？	令和元年度に総合案内から多目的トイレまで点字ブロックを追加敷設してほしいという要望を承り、令和2年度に点字ブロックを追加敷設するなど修繕対応を行っております。
	(5) 施設維持管理費など運営関連の情報をご説明下さい。	当日資料9P参照
	(6) コロナ禍での市民交流プラザの活用は厳しいと思います。コロナ禍と共存のにぎわい創出を考えてはどうか。市民交流プラザについて利用者からのアンケートや意見の聴取をしたことがありましたらお聞かせください。	現在、施設を安全安心にご利用いただくため、利用人数制限の対応をとるなど、にぎわいの創出のバランスを取ることがとても難しい状況です。現在、施設利用者の皆様からコロナ禍における当該施設の有効活用に係るご意見を聴取はしていませんが、時期をとらえて施設利用者の皆様からご提案を承りながら今後の施設運営の参考としたいと考えております。
	(7) 親子ふれあいスペースにスタッフの配置を検討すべきではないか。	親子ふれあいスペースは、親子でご利用いただいていることや各種事業でご利用されている際には、主催者側で管理されているため、これまで大きな問題は発生しておらず、施設スタッフを配置していません。今後も必要に応じてスタッフ配置について検討してまいります。
	(8) 市内地域子育て支援センターの活動場所の一つとして利用を促すことはできないか。	地域子育て支援センターの活動場所として活用いただけるかについて関係者と協議してまいります。
	(9) 利用者は駐車料の支払いが必要でしょうか？	市民交流プラザ条例第9条の規定に基づき駐車料金を徴収しております。
	(10) 利用率はどのように算出しているのですか。	プレイルーム・親子ふれあいスペースを除き、各部屋ごとに午前・午後・夜間の3区分の時間枠で利用できることから、以下の計算式により算出しています。 部屋ごとの実際に利用された時間枠÷稼働日数の3倍
	(11) 観光面において十和田市のにぎわい創出に貢献とは具体的にどのような利用があったのでしょうか。	当日資料16P参照
当日質問	管理経費の中の需要費とは何か。	事務用品、光熱水費、修繕料も含まれています。
	令和2年度の売上に当たる収入は駐車場料も含めて310万円ということではよろしいでしょうか。	基本的に使用料無料で光熱費等はいただいております。
	建物を建てた際、来館者は20万人前後がピーク。造られたときの利用者数の目標値はどれくらいのイメージだったか。	(資料がないため、未回答)
	4,000万円くらいの経費を使って、ピーク時だと400万円くらいの収入が入ってきており、9割が施設管理者の負担となっております。今後の建物管理にかかるシミュレーションはしているか。	将来的に修繕費等のコストも出てくると思いますので、考えていかなければいけないなど思っています。使用料について原則無料ですが、営利を目的とした団体に対しては使用料を取っていくという方針です。
	プレイルーム・親子ふれあいスペースについて、利用者がないと言っていいくらいです。青森市のアウガヤや八戸市のはっち、三沢市のそらいえではスタッフが配置されています。母親たちは安心してママ友同士が話せるような環境を求めて出かけてくる。現状、プレイルームは親が付いていないと危ないです。今後は魅力ある環境にして、利用を促せるような工夫が必要かと思いますがいかがでしょう。	当初のコンセプトが途中で変わったということと、デザイン等建物の使い方に制限があり、こちらで好きなようにできない部分もあるが、ご意見いただきながら、活発に利用される施設になるよう考えていきたいと思っております。
	周りのロッキングが雨が降るとたわむ。また、雨がやんで乾いていくとキノコが生えてきます。コケがびっしり生えて自転車で転ぶ人もいます。ロッキングの改善を考えていた	雨どいがなくて、雨が降ると屋根から雨が流れて穴になったりするため、改善できる所は改善していきたいと思っております。